

〔第26回 学術集会シンポジウムⅡ〕

“カルガリー家族システム看護”について

文京学院大学

中村由美子

家族看護の実践家として日本でも著名なライト博士 (Dr. Wright) とリーヘイ博士 (Dr. Leahey), ベル博士 (Dr. Bell) が提唱するカルガリー家族システム看護について紹介しました。

カルガリー家族システム看護には、カルガリー家族アセスメント／介入モデル (CFAM/CFIM), イルネスビリーフモデル, トリニティーモデルがあります。とりわけ、カルガリー家族アセスメント／介入モデルは、臨床で家族看護を実践するには非常に有効であり、システム理論を基礎にした家族療法であるミラノ学派が開発したモデルを採用しています。

カルガリー家族アセスメントモデル (CFAM) は、家族の構造・発達・機能の側面をアセスメントし、

家族インタビューを行う中で、家族の機能障害となっている「悪循環を見つけ出し」、それを断ち切ることをその手法としています。介入方法 (CFIM) は家族の行動・感情・認知領域に働きかけて悪循環を断ち切ることですが、システム認識の考え方も取り入れ、家族の捉える問題の見方を否定的なものから肯定的なものに変える「問題の再枠組み化」の技法を用いています。同様に、「家族や個人の強み」を賞賛する介入も、家族の認知の変化を促すパワフルな技法です。私たちが普段患者・家族から聴取しているジェノグラム (家族図) や円環的コミュニケーションパターン図が活用できます。円環的な問いかけなどの介入技法も有効です。